

2009年5月28日

『社会福祉学の〈科学〉性』とその後の雑感

三島 亜紀子

- 1 はじめまして
- 2 『社会福祉学の〈科学〉性』のあらすじ
- 3 根拠に基づく実践、1990年代からの流れ
 - 医療
 - 福祉
- 4 出版後の私的エビデンス雑感 (文章にはしていないけれど、気になっていること)
 - A 障害学的見解とエビデンス
 - B 三度の波
 - C 最近の「理系」の研究

1 はじめまして

★昔話

二冊の本がごっちゃになったような修士論文作成のころ (1997-1999年)

★自身の研究の分類

- (1) ソーシャルワークの理論に関する研究
- (2) (1)の本質を探る理論的・歴史的研究
- (3) (1)にもとづく教育手法に関する研究 (参加型学習に関する研究)

★今の研究

・科学研究費補助金 (若手研究(B): 課題番号 20730388)

「障害者の自立生活を支える環境整備のための福祉教育

: DETによるエンパワメント過程」

DETとは:

Disability Equality Training の略記で、障害平等研修などと訳されている。DETは「障害者と関わる人々」が、「社会の差別的な慣習の本質を理解し、何をなすべきであるのかを明らかにすることを目的に、障害者本人の手によって計画・立案」されるものである (Gillespie-Sells & Campbel [1999=2005: 15])。講義に加え事例検討やロールプレイ、行動計画作成などで構成され、グループワークを中心にした、いわゆる「参加型」のトレ

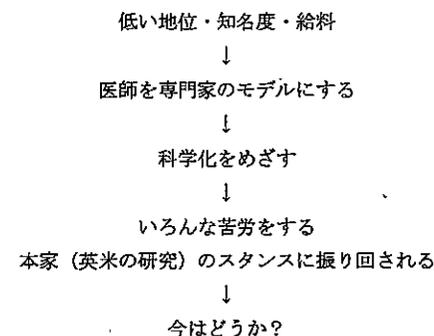
ーニングが基本となっている。

<参考文献>

- Gillespie-Sells, K. & Campbel, J. 1991 Disability Equality Training, Central Council for Education & Training in Social Work. (=2005, 久野研二訳, 『障害者自身が指導する権利・平等と差別を学ぶ研修ガイド—障害平等研修とは何か』明石書店.)
- Harris, A. & S, Enfield 2003 Disability, Equality and Human Rights: A Training Manual for Development and Humanitarian Organisations. Oxford, Oxfam.

・教材作り

2 『社会福祉学の〈科学〉性』のあらすじ



3 根拠に基づく実践、1990年代からの流れ

◆医療 (根拠に基づく医療 EBM)

◇旗振り役/デービッド・サケット

EBMを「一人ひとりの患者の臨床判断にあたって、現今の最良の証拠を、一貫性をもった、明示的かつ妥当性のある用い方をすること」とし、EBMの実践を「個人の臨床的専門技能と系統的研究から得られる最良の入手可能な外部の臨床的根拠とを統合すること」と定義している (Bedenoch & Heneghan [2002=2002: 1])

Bedenoch, D. & Heneghan, C. 2002 *Evidence-based Medicine Toolkit*, =2002 斉尾 武郎監訳『EBMの道具箱』中山書店

◇無作為化比較試験 (randomized controlled trial: RCT)

治験及び臨床試験等において、データの偏り (バイアス) を軽減するため、被験者を無作為 (ランダム) に処置群 (治験薬群) と比較対照群 (治療薬群、プラセボ群など) に割り付けて実施し、評価を行う試験。

◇コクラン共同計画 (1992年～)

1992年にイギリスの国民保健サービス (National Health Service: NHS) の一環として始まり、現在、世界的に急速に展開している治療、予防に関する医療テクノロジーアセスメントのプロジェクトである。無作為化比較試験を中心に、世界中の clinical trial のシステマティック・レビュー (収集し、質評価を行い、統計学的に統合する) を行い、その結果を、医療関係者や医療政策決定者、さらには消費者に届け、合理的な意思決定に供することを目的としている。

→一日 19本の論文か EBM か?

◇アーチボルド・コクラン (1908～1988)

「Effectiveness and Efficiency」のなかで、すでにあるランダム化比較試験から、よりよいものを選びすぎて、質の悪いものは除いて、それらをまとめて、遅れなく、必要な人に届けることが大切であると力説している。

◇旗振り役/ミュア・グレイ

イングランド公衆衛生局

NHS 管理運営部イングランド地方研究開発局長

「オックスフォード大学 EBM センター設立の際、マクマスター大学よりサケットを招聘するなど、イギリス EBM 草創期の主要な組織の設立に参画したのである。ミュア・グレイという人物のなかでは、医療費の効率化と、医療の質の向上と、PUS¹や患者中心あるいは脱専門職主義的な思想が調和していた」(三島 [2007])

◇脱専門職主義的なエビデンス思考

「医療の新しいパラダイム」において、医師の知的権威・道徳的権威・官僚的権威・カリスマ的権威は失墜し、医師は患者と意思決定を共にこなう補完者となるという (Gray [2002=2004])

「インフォームド・コンセントの徹底化」

→パターナリズムから「自己責任」へ

◇ナラティブとエビデンスの関係

「根拠に基づく実践は、ナラティブに基づく実践とあわせてはじめて完成する」

Greenhalgh, T. (2001) *How to Read a Paper: the Basics of Evidence Based Medicine, (2nd ed.)* = 2004 今西二郎・渡邊聡子訳『EBM がわかる——臨床医学論文の読み方 (第2版)』金芳堂

Greenhalgh, T. & Collard, A. (2003) *Narrative Based Health Care: Sharing Stories* = 2004 斎藤清二訳『保健専門職のための NBM ワークブック—臨床における物語共有学習のために』金剛出版

・NBM

<http://www.dipex-j.org/>

「DIPEX は Database of Individual Patient Experiences (個々の患者の体験のデータベース) の頭文字を組み合わせた名前です。DIPEX のホームページは、2001年英国オックスフォード大学プライマリヘルスケア部門と DIPEX チャリティという非営利団体によって作成され、運営されてきました」。

2008年10月～ Healthtalkonline

例) 認知行動療法はエビデンス・ベーストにしやすい。

けれど、伊藤恵美さんはナラティブにも関心がある。

伊藤給美・向谷地生良編著 2007 『認知行動療法、べてる式。』医学書院

ジュディス・S・ベック 2004 『認知療法実践ガイド基礎から応用まで——ジュディス・ベックの認知療法テキスト』星和書店

斎藤清二 2005 『「健康によい」とはどういうことか——ナラティブ医学講座』晶文社

*EBM の概観

・患者のナラティブ重視

インフォームド・コンセント PUS 患者中心 (185, 187の図)

・効率性の重視

ガイドラインの批判的吟味 か 料理本 か? (187-189)

アーチボルト・コクラン、ミュア・グレイ

*EBM の背景

IT 環境の整備

新保守主義 (二重のパフォーマンスを求める EB politics 支出→所与の問題解決+支出の抑制)

◆福祉

◇EBSW とは

実証的に検証された文献や論文を体系的に収集し系統立て、そこで得た知識と手順が、援助目的に最も適切で効果的な結果をもたらすように、実践者に介入法（インターベンション）の選択と実施を支援するものである（Rosen & Proctor [2003: 1]）

Rosen, A. & Proctor, E. K. 2003 Developing Practice Guidelines for Social Work Intervention: Issues, methods and a Research Agenda, Columbia University Press.

◇キャンベル共同計画（1999年～）

◇助成金を得やすいEBP

◇専門家と素人の「人間関係を平等にする」 ← 「専門家が用いるもの」
「クライアントをエンパワーする」

◆

・191頁 図6-2

「反省的学問理論」とエビデンスに基づく権限の両方を手中に収める専門家像

・202頁 図6-3

医学モデルと二分化された理論モデル

4 出版後の私的エビデンス雑感（文章にはしていないけれど、気になっていること）

A 障害学的見解とエビデンス

◆Sapey, B. (2004) Practice for What? The Use of Evidence in Social Work with Disabled People, in D. Smith (ed.) Evidence-based Practice and Social Work, London, Jessica Kingsley.

◇ソーシャルワークを侵略した社会モデル

1970年代まで専門家支配が続く

Independent Living Fund (1988) コントロール権が障害者へ委譲

◇オリバーによる調査批判

従来の調査は、個人 - 悲劇モデルを支えるものである

正しい調査 → 社会モデルにもとづくもの

◇エビデンスも、社会モデルにもとづいたものであればOK

社会モデルにもとづいていれば健常者が調査に参加してもいいが、できれば当事者の参加が望ましい。

ソーシャルワーカーが望むEBPに対して懐疑的

ケアマネジメントにおけるエビデンス重視は、自立生活を支えることより資源の管理に関心があるといえる。

◇「解放の障害調査」

例) 法律の不備を証明する調査

当事者がトレーナーとして行動することの重要性を裏付ける調査

ダイレクトペイメントを自分でマネジメントしている人と社会サービス部に依存している人とを比較する調査

Michael Oliver & Bob Sapey 1992 Social Work with Disabled people (2nd edn). Macmillan.

◆尾上浩二 (DPI 日本会議・事務局長)・・・Bの構え

「重度障害者の地域生活の確立を、施設・病院から地域へ」(2006年)

④「退院支援施設」ではなくピアサポートや地域での住まいの確保を

エビデンスもなく構想されてきた「退院支援施設」-「看板かけ替え」「数字合わせ」になり、社会的入院の解決にはならない

B 三度の波

院生時代「これから福祉は調査ができないと、研究者になれないよ」と言われた記憶

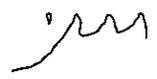
→ エビデンス重視は最近のものではない

・福祉領域におけるエビデンスへの注目には、三度の波があるのでは？

① 福祉専門職の萌芽期 (19世紀末—20世紀初頭)

② 反専門職主義が高まった時期 (1960年代—1970年代)

③ エビデンス (データに基づく証拠) がキーワードの現在



	英 (米)	日
①	メアリー・リッチモンド 介入前後の写真 <資料 a>	立派な軍人になったという告白<資料 b> 介入前後の写真 <資料 c>
②	ヘンリー・マイヤーら『職業訓練学校の 非行少女の調査』(1965)、ゴードン・E・ ブラウン『複合問題のジレンマ』 (1968) ……無効である証拠① The Social Service Review 誌の特集 (1972) ……有効である証拠 ～単一被験者実験法の開発	左に関する情報の紹介 (岡本 [1986] [1987]) 他
③	情報環境の変化 (PC, internet の普及) 社会的・政治的環境の変化② EBM の影響 キャンベル共同計画 アンチ「料理本」派③	

①福祉専門職の萌芽期 (19世紀末—20世紀初頭)

最もエビデンスが求められた時期ともいえる。

英 (米) ……介入前後の写真^a

日本 ……立派な軍人になったという告白 b

介入前後の写真 c

②ソーシャルワークの無効性の根拠となるデータの提示に対し (4章1節)、

- 1) その批判を心理主義ソーシャルワーク傾倒への批判と読み取り、独自の「発展」を志向するもの

「社会」の視点が必要としたパールマン

システムズ・アプローチに解決策を求めた Mullen ら [1972]

- 2) 外部での批判をほぼそのまま移植し、その「専門職性」の一新を企図するもの
脱施設化、セルフヘルプ、反施設主義的なノーマリゼーション
対称的なワーカー-「利用者」関係など

- 3) ソーシャルワークの「効果」をより高めるために厳密な調査をおこない、その専門性を高めようとするもの

③

Cournoyer [2004: 2-3]

①継続的な教育を必要条件とし、さらなる専門的説明責任を求める法律の可決。

②効果測定に裏付けられたサービス・アプローチを選ぶよう直接的・間接的なインセンティブを与える、マネジド・ヘルス・ケア・システムの激増。

③保健・精神保健サービスならびに、社会・教育システムにおいても、全国的に強い消費者保護運動が出現したこと。

④パフォーマンス志向または結果 (outcome) 志向の資金提供戦略の傾向が高まっていること。

⑤ソーシャルワーカーを含むヘルピング・プロフェッション (援助専門職) を相手取った、社会福祉実践の過誤に対する訴訟のケース数の増加。

⑥提供するサービスの種類・質・結果に対する、ヘルピング・プロフェッションの法的責任を強調する裁判所における判決。

Smith [2004]

「福祉サービスの供給を modernising, rationalising した国」

イギリスの場合、ニューレイバーの時代

1999年 The National Institute for Clinical Excellence (NICE)

2001年 the Social Care Institute for Excellence (SCIE)

③

Smith [2004]

Sapey [2004]

<参考文献>

Cournoyer, B. R. 2004 The Evidence-Based Social Work Skills Book, Pearson Education.

Mullen, E. J., Chazin, R. M. and Feldstein, D. M. 1972 "Services for the Newly Dependent: An Assessment," The Social Service Review, 46-3.

岡本 民夫 1985 「ケースワーク理論の動向 (I)」『評論・社会科学』26

—— 1987 「ケースワーク理論の動向 (II)」『評論・社会科学』32

Sapey, B. 2004 "Practice for What?: The Use of Evidence in Social Work with Disabled People," in Smith [2004]

Smith, D (ed.) 2004 Social Work and Evidence-Based Practice, Jessica Kingsley Publishers London and Philadelphia.

C 最近の「理系」の研究

・言語の起源に関する研究

ヒトは言語を獲得する以前から、表情を使った非言語コミュニケーションを発達させてきた、また言葉は表情・身振りから発展したとも考えられる、とする研究

→3章 弱者の困り込み 1節 ろう者について言及

ダーウィン 『人及び動物の表情について』(岩波文庫)

において、障害者を人間の周辺部に位置付けたことを批判的に取り上げている

→?

・社会生物学の考察

貧困・虐待をもたらしやすい生物学的な素質についての考察

→方面委員制度 貧困救済 「カード階級」

2章1節で批判的に扱ったような事柄について、どうとらえなおすか?

坂口菊恵 2009 『ナンバを科学する——ヒトのふたつの性戦略』東京書籍

1 「一般市民の科学理解 (Public Understanding of Science : PUS)」が並置されることもある(斉尾・栗原 [2001]、斉尾他 [2002]、斉尾 [2003])。PUSとは、「公衆の職業科学者に比べた専門的知識の質的・量的な格差と、それら専門的知識の専門家から公衆への一方的な流通という前提をとらないこと」(綾部 [2001 : 212])である。

2 公共サービスに民間企業のマネジメント手法を導入することで効率化を図ろうとする理論と、それに基づく行政改革の動きである。その特徴として、「品質管理の重視」「評価の重視」「効率の重視」などがあげられる。(近藤・山本 [2005 : 233])

近藤克則・山本美智子 2005 「イギリスにおける医療の質評価の動向」『JIM』15-3

3 写真という「エビデンス」

ヒュー・ウェルチ・ダイヤモンド (1852-59) とサンペトリエール病院のジャン=マルタン・シャルコー (1876) は、カメラを臨床に持ち込んだ。

「シャルコーと弟子たちは写真の映像には科学的中立性があるとたく信じていた」

「写真の乾板というのは科学者の真正銘の網膜そのものなのだ」(写真師)

写真=科学的とされ、専門的介入前後の写真が撮られた。

- ・ 現在と比較すると、事例は少なくとも訴える力があつた。
- ・ スケールはそれほど吟味されなかつた。

Showalter, Elaine 1987 *The Female Malady: Women, Madness and English Culture, 1830-1980* =1990 山田晴子・菌田美和子訳『心を病む女たち——狂気と英国文化』朝日出版社

富島美子 1993 『女がうつる——ヒステリー仕掛けの文学論』勁草書房

Didi-Huberman, Georges 1983 *Invention de l'hystérie : Charcot et l'iconographie photographique de la Salpêtrière* =1990 谷川多佳子・和田ゆりえ訳『アウラ・ヒステリカ——パリ精神病院の写真図像集』リポート